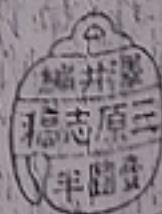


大正元年十月

尚古

第五拾號

廣島尚古會



◎廣島市歌

會員矢田部藤吉氏の作歌に、學習院教授納所
辨次郎氏の附曲したる廣島市歌なるもの左の如
し。

第一章

天正年間
築きしが
王政復古の
長月に

輝元公
福島淺野と
御代に遇ひ
始めて市制は

廣島城を
世はかはり
明治二十二の
布かれけり

第二章

千田貞曉
六星霜
頃にか
地に海陸
地となりて

知事の時
宇品の港
聯絡し
輸送は日々

經營慘憺
築きしより
中國樞要の
増しにけり

第三章

日清役の
進められ

策源地
勝を千里に

大蘇遠く
決したる

大本營の

第四

日露の役の

武夫は

北清原野の

荒鷲を

第五

嗚呼賑はしき

五萬人

商工業者も

大都會

跡は此處
千載不磨の

章

其折も

全國師團の

勇戦に

懲して功

章

廣島市

家居は鱗ど

數多し

嗚呼賑はしき

金鵒の塔の
紀念なり

第五

師團の

戦友と

たけび狂ひし

たてにけり

人口十有

重なりて

中國無比の

廣島市